桜萩会だより

宮崎県立小林中学校
〃 小林高等女学校
〃 小林高等学校
関東地区同窓会
発行責任者
窪谷　治
事務局
横山　邦子
〒202
保谷市泉町
1－10－4
☎（0424）63－3336

桜萩会のご発展を祝福！

—30号記念号に寄せて—

小林高等学校校長　**国分　惟弘**

早いもので、もう年の瀬を迎え、平成九年も残すところわずかとなりました。

桜萩会会員の皆様方には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

去る六月七日に行なわれました桜萩会総会の際は、皆様方に大変お世話になり有難うございました。

さて、今回「桜萩会だより」は発刊三〇号の記念特集号とのこと、誠におめでとうございます。

このことは会員の皆様が異郷の地にあって日毎に募る郷土愛・母校愛と、発刊のお仕事に携わって来られた方々の、並々ならぬご努力の賜物と深く敬意を表するものであります。

ところで、本校卒業で今年還暦を迎えられる学年の方々が先日（一〇月一〇日）同窓会を実施されました。

学校へ書架のご寄贈があり、皆さん母校に集合されました。

校長として、ご寄贈へのお礼と学校の現況をかい摘んでお話をし、次のような還暦のお祝いの言葉を申し上げました。

「還暦は本卦（ほんけ）がえりと言って、生まれた年の干支が六〇年後にもどってくることからめでたいとされた年齢であります。

振り返ってみますと、皆さんは恐らく終戦の年が小学校二年生でしょうから、防空頭巾をかぶりB29やグラマン戦闘機の下を逃げ惑った経験をお持ちと思います。

戦争に続く終戦後の食糧難の時代、日本経済が奇跡の復興をなし遂げるや交通戦争、そして様々な病気などなどを生き抜かれて来られた方々であります。

還暦を迎え感慨無量のものがおありと思います。

これからもなお仕事が続く方、定年退職で勇退される方など、人それぞれとは思いますが、どうか皆さん新たな目標を見付けられまして、生きがいのある人生となりますよう祈念申し上げまして、おれの言葉といたします。本日はおめでとうございました。」

勿論、桜萩会会員の方々は、還暦の年齢の方ばかりではありませんが、どなたもそれぞれ必死の思いで生きて来られたことと思います。だから、私は生徒たちに言うのです。

「今は飽食の日本だが、三〇年くらい前までは食うに困る状態で、衣・食・住ともに貧困だった。

また、五〇年前は戦争があったし、それ以前も二〇年と平和は続かないくらい戦争があった。

そして、様々な病気のために夭折（ようせつ。早死に）する人が多かった。

そのような時代に育った人々は、勉強よりも先ず食べることが優先であり、勉強しようにも思いにまかせない事情があった。

自分の将来の夢の実現に向かって努力するということは、大変なことだった。

それに比べ、今の時代は本人がその気になりさえすれば、親の援助もあり奨学金制度等もある。

自分の人生物語をつくって、それを実現しようとすればできる時代である。

こういう恵まれた時代に生まれ育ったのだから、自分の人生物語、それもそんじょそこらにある物語ではなく、ノーベル賞級の物語をつくって思いっきりやってみてほしい。二度とない人生なのだから。」と。

生徒諸君が、自分の人生のために精一杯頑張るよう指導するとともに、期待もするところであります。

一方、学校はハード面、ソフト面ともに発展的に大きく変化しております。

ここ数年を見ても県教育委員会のご高配によって、大規模改修を含めて校舎改築がなされ新設高校のようにきれいになりました。

一方、体育コース設置に伴う生徒寮の建設も始まり、来年三月末に完成予定であります。

伝統の文武両道は連綿として受け継がれています。

大学進学（国・公・私）は依然高い水準にあり、部活動ではバスケットは男女とも健在、特に男子は全国ベスト四を狙うチームであります。また、駅伝部も駅伝シーズンを迎えて元気を出してきています。

最後に「桜萩会だより」は年々その体裁を新たにされ、内容も充実の一途を辿っておられます。三〇号記念特集号の発行が今から楽しみであります。

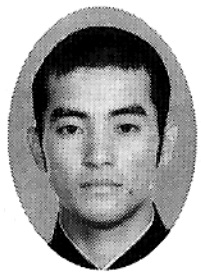
年末の皆様のバスケットへの応援に感謝し、併せて桜萩会の益々のご発展と、会員の皆様方のご健勝を心から祈念申し上げまして、ご挨拶といたします。

小林高校の今

情熱みなぎる秋桜祭！

圧巻、最後のファッションショー

野球部主将
富永　寛章
（普通科三年）



現代の若者、特に私達高校生は世間からよく、情熱に欠けているとか、目的意識がないなどと言われています。しかし、それは一部の者のある種の行動様式に関してであって、全ての高校生や若者がそうであるとは限らないのです。

小林高校では、「立志鍛練」の校訓のもと文武両道を目標にかかげ、私達は三年間、勉強に部活動にと励んできました。その間、若者らしく純粋な情熱を抱き、確固たる目的意識をもって取り組んだ瞬間も数多くあります。

特に、高校生の今も昔も変わらぬはつらつとした姿を発見できるのは、毎年九月に行なわれる学園祭です。学園祭は「秋桜祭（しゅうおうさい）」と銘うち、体育の部と文化の部とに分かれ、三日間で実施する一大行事であります。この「秋桜祭」では生徒の熱意や気迫が十分伝わり、まさに「小林高校生ここにあり。」をアピールする場と言えます。

体育の部では、各団の団長や三年生を中心に独自のマスコット作りや応援披露に精を出し、高校生らしいユニークな発想と奇抜さとで周囲の眼を見はらせました。また、リーダーが編み出したエールを、各団へ、そして体育祭成功と小林高校の発展を願って送りました。私もリーダーのひとりとしてエールに参加しました。練習が不十分であったにもかかわらず、本番では見事に成功、大きな拍手をいただいた時には、何とも言えない満足感と充実感が湧きました。自分達だけでなく周りの全ての方々にとっても強く印象に残る一場面であったと思います。

文化の部では何と言っても家政科のファッションショーが圧巻でした。本年度で閉科となってしまう家政科の生徒、職員にとっても最後のファッションショーとなりました。最後を締めくくるという意味でも、かなりの重圧もあり、また力も相当入っていたことだろうと思います。そんな緊張感の中、音楽と照明がモデルと見事に一体化し、一種独得なムードを作り上げ、観客を別世界へと誘い込んでくれました。幕が降りる時に感極まって涙ぐむ生徒もいて、本当に心に残る思い出深い「秋桜祭」のフィナーレとなりました。

この「秋桜祭」という学校行事を通して、私達は貴重な財産を手にすることができたと思います。無気力で情熱に乏しい高校生と批判される一面もありますが、昔と変わらぬ若いエネルギーは健在です。

二十一世紀では私達が社会の核とならなければいけません。様々な問題に出くわした時、積極的にそれに対応してゆかねばなりません。その時、「秋桜祭」で体得した"眼に見えないモノ"——つまり、協調性や創造力、そして他人を思いやる心がきっと大切になってくることでしょう。間もなく巣立ってゆく小林高校生の今後を、期待と励ましの眼で見守っていて下さい。

◇　◇　◇

母校バスケット部

男女ともに全国大会出場を決める！

去る十一月二日に行われた「全国高校バスケットボール選抜優勝大会」の宮崎県予選で小林高校が3年連続で男女アベック優勝を果たし、十二月二十二日から東京体育館などで開催される全国大会に出場することになりました。女子は26回目の出場、男子は3回目です。今年は常勝の女子のみならず、伸長著しい男子も圧倒的な得点差で決勝まで勝ち上がりました。女子は決勝戦で延岡商業を90対26で、男子も高鍋を91対49でそれぞれ下しました。男女とも全国ベスト4を狙える実力で、全国大会での活躍が期待されます。

1回戦は次の日程で行われますので、年末は会場に出向き、桜萩会を挙げて母校を応援しましょう。

女子1回戦：12月22日(月)
15時30分
東京体育館

男子1回戦：12月24日(水)
17時30分
東京体育館

（宿泊先）
日本青年館（新宿区霞丘町、TEL・03－3401－0101）

一方、十一月十日に行われた全国高校駅伝の宮崎県大会では、小林高校は2時間11分33秒のタイムで、残念ながら高千穂高校（2時間9分58秒）に破れて2位に終わり、全国大会出場を果たせませんでした。今後の復活を期待したいものです。（編集部）

◇バスケットボール 第28回全国高校選抜優勝大会県予選（2日・宮崎商高体育館）

【男子】
▽準決勝
小林 50（45－13、5－26）延岡商
高鍋 77（32－27、45－64）日南
▽決勝
小林 91（42－29、49－20）高鍋

【女子】
▽準決勝
小林 85（36－21、49－44）都城商
延岡商 45（16－19、29－36）宮崎北
▽決勝

宮崎日日新聞（1997年11月5日付）

お知らせコーナー

【桜萩会年会費お支払いのお願い】

桜萩会は皆様からの会費で成り立っています。新聞発行、各種案内用封筒、名簿作成等々…。効率的な予算執行に腐心しながらも、毎年、ギリギリの状況です。同窓会を皆で盛り上げるために、年会費2,000円の支払いがまだの方は、下記の郵便振替口座にお支払いいただきますよう、お願い致します。

〔お支払いの郵便振替口座〕
口座番号：00139－6－75068
口座名義：
小林高校関東地区同窓会桜萩会

海岸海洋土木分野の調査・計算・解析・設計業務
株式会社 コスタル エンジニアリング
代表取締役　針貝　聰一
高22回（昭45年卒）
〒113東京都文京区本郷5-23-13田村ビル
TEL・〇三（三八一四）五三四八
FAX・〇三（三八一四）五〇六四

—お世話になりました—

母校、小林高校に4年勤務しまして、4月に都城泉ヶ丘高校へ転任しました。この間、桜萩会の皆様方には大変お世話になりました。紙面をお借りして心から厚くお礼申しあげます。

今後共よろしくお願い申しあげます。

〒885都城市一万城町61－3
常森　行男（高13回卒）
☎0986—21—2538

建築金物（アルミ・ステンレス・スチール製品加工）
設計・製作・加工・施工
大洋金属工業株式会社
代表取締役　西田　忠司
高5回（昭和28年卒）
〒144 東京都大田区東糀谷五丁目一二番七号
電話 〇三（三七四五）一六四一（代）

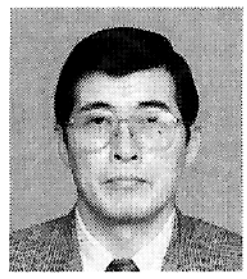
建築設備・空調エンジニアリング総合社
橋口総合設備株式会社
代表取締役　橋口　和人
高1回（昭和24年卒）
〒190 立川市砂川町七丁目四九番地七
電話（〇四二五）三七一六九七一
FAX（〇四二五）三六一〇七八〇
桜萩会価格設定

居酒屋 一休
JR飯田橋（四谷側出口）徒歩約5分
営団・九段下（靖国神社側）徒歩約8分
宮崎県東京会館より徒歩約13分
JR飯田橋駅
←至四谷
TEL03（3264）6266
警察病院→
←養老乃瀧
一休→
↓至靖国神社
千代田区富士見1-8-20 大興ビル1F
高15回卒 田辺（浜崎）千穂子

「桜萩会だより」第30号・記念特別寄稿

小林高校バスケット部の思い出と今後の展望！

宮崎県教育庁スポーツ指導センター所長
北郷　純一郎



生駒高原にコスモスが満開の季節となりました。桜萩会の皆様方におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。「桜萩会だより」"30号記念特集号"の発行、誠におめでとうございます。編集に携われた方々のご苦労に深甚なる敬意を表します。

さて私ごと、教師生活初めての異動の後、早や三年が経とうとしています。振り返りますと、昭和四十三年に着任以来二十七年間の長きにわたり小林高校に勤務させていただきました。赴任以来同一校勤務は、県教育界においても稀なことであり、在任中、思う存分バスケットに打ち込み、わがままな教師生活を送らせていただいたことに感謝しております。

この間たくさんの出会いがあり、在任中の後半には教え子の息子さんや娘さんを指導する機会にも恵まれ、親子にわたり人間的交流が深まったことは、同一校に長く勤務できたお蔭だと思います。

バスケットボール部を指導する中で、女子の指導が大半でしたが、各種全国大会優勝三回の実績を上げることができ、指導者としてこの上ない喜びです。思えば、赴任当初十年間は、指導者として知識不足のままただ若さに任せたスパルタ式指導で、当時の教え子たちはよくぞまあ、厳しい指導についてきてくれたものだと感心しております。

その後、勉強する機会も多く得て、「意志のあるところ、道は開ける」と信じて、選手と指導者が真剣にコートを駆け巡り、汗涙を流し、ねばり強く、精一杯の努力を継続した結果が全国制覇につながったのではないでしょうか。このように全国制覇とは、負けることから悔しさを知った選手たちが、何代もかけて蓄積したエネルギーを爆発させたものと考えています。また、大勢の卒業生が明日を夢見て努力してきたことが、今日の女子バスケットボール部を発展させ、伝統を築き上げてきました。

一方、男子の方も六年前から本格的に指導を始め、全国に飛躍しようと努力してきましたが、一昨年の全国大会出場（全国選抜優勝大会）から四回の出場を果たし、年々レベルを向上させて、全国ベスト4にもう一歩の所に来ています。

現在、西田次良（女子監督）、森億（男子監督）両先生の下、男女とも十二月の全国選抜優勝大会ベスト4を目指して練習に励んでいるところであります。バスケットボール界においても、時代の変化とともに高校生の部活動の競技レベルも上り、まして強くなればなるほど指導者の仕事量は増加し、教師という仕事を果たしながらボランティア活動に等しい「部の指導」は大変なものがあります。しかも、長期在任し、熟練した前任者の後を引き継ぐのは、若い指導者には大変な重荷だったでしょう。

仕事に支障がない限り私も、学校のご理解の下、総監督という立場で引き継ぎがスムーズにいくように二人の指導者とのコミュニケーションを十分に取り、強い「信念」をもって後継者及び選手の指導に当たっている所であります。あくまでも外部指導者の立場でお手伝いをするということになります。男女バスケットボール部がより充実し、伝統ある小林高校の発展に寄与することは、県の競技力向上にもつながるものと考えますので、微力ではありますが、心をこめてお手伝いをさせていただく所存です。

ありがたいことに、在小林及び全国各地のバスケットボール部のOB達も何かにつけて協力してくれますし、後輩の活躍にいつもエールを送ってくれますことは、何よりの励みになっております。また、十二月の全国選抜優勝大会では、毎年、「桜萩会」の皆様の心からの応援をいただき、選手共々、感謝の気持ちで一杯です。応援の皆様に感動していただけるような「チーム」を目指して一同頑張っているところであります。

今後とも小林高校バスケットボール部に皆様方の絶大なるご支援、ご協力をお願い申し上げますとともに会員の皆様方のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。

（前・小林高等学校教諭）

第27回全九州高校バスケット選手権

輩（やから）

人生の転機
銀行を辞めて出向先企業に入社

豊福　親治さん（昭19年・旧中19回卒）

「私はいいかげんな男なので、これまでの人生もハチャメチャだったんですよ」と笑いながら語る。大正十五年生まれの七一歳。えびの市飯野出身。旧制小林中学の四年生の時に旧制七高へ進学した。

中学時代の思い出…。

「当時は戦時中だったせいか、みんな良く勉強してたなぁ」「僕は通学の汽車の中で英単語を暗記するのが日課だった」と懐かしげ。七高を経て昭和二十年に東大経済学部へ入学。卒業と同時に東海銀行に入行。「いやぁ。どこでも良かったんですよ。特に銀行に行きたかったわけでもなく、ふら～っと受けたら、たまたま合格したもんだから」。

銀行では主に財務審査畑を歩いたが、支店長経験も。だが、その直後に大きな転機が訪れる。四五歳の時に東海銀行本社勤務からミサワホームへ出向を命じられ、現社長と皇居近くのパレスホテルで食事をした際に、「いっそのこと銀行を辞めて、うちに来ませんか」と誘われた。「僕もビックリしたが、東京に帰りたいと思っていたし、"いいですねぇ"って言ったんです」。その時に二つの条件を提示した。一つは、ミサワに入っても銀行にカネを借りには行かない、もう一つは、奥さんを説得するので一週間待って欲しい、というもの。

「実は、当時のミサワは従業員三〇〇人の小さな建設会社で、女房が反対すると思い、電話で銀行を辞めてミサワに入ってもいいかと、聞いたんです」。「その時の女房の返答が傑作で、今でも忘れない」。奥様は「そういう亭主は、つまらない亭主です。男が仕事を変えるのに女房にいちいち相談しているようではだめです」と言ったそうである。

経理担当常務で、入社した後、専務を経て、昭和五十八年に副社長に就任。「実は十年ほど前に心筋梗塞になって。回復したんですが、社長に一線から退かしてくれと頼んだんです」。それで相談役（現職）に就任。金策には回らないと言いつつ、オイルショック後に会社が経営危機に陥った時には、資金調達に東奔西走した。「社長も結構変わった人だが、僕とはなんとなくウマが合ってね」と、三澤社長との二人三脚でミサワホームをグループ売上五千億円の大企業にした自信が覗く。

こんな話もある。かつて、ミサワの住宅にクレームが多かった時、桜萩会の現・橋口会長（高一回卒）がクレームを解消する作業部隊を編成してくれて、クレーム処理を精力的にやってくれた。「あの時の橋口さんのご協力のおかげで、今年、通産省から業界初のCS大賞を受賞することができた。本当に感謝していますよ」と。

「これといった趣味はないなぁ」と言いつつ、今は言語学に興味があり熱中。読書も好きで年間六十冊は読む。温和な性格で「他人のいいところしか見えないんです僕には」「だから、一度も部下を怒ったことがない」と。

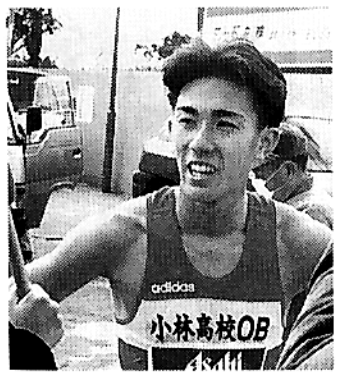
気取りのない控えめな語り、笑みの絶えない明るく若々しい表情。洗練されたスマートさもチラリ。三人の子供のうち長女はパリ在住。次女と長男は東京。世田谷代田の自宅に婦人と二人暮らし。今でも二年に一回は郷里の飯野に帰る。

（取材　窪谷治）

たすき　欅リレー

厳しさの中へ新たな出発

旭化成　榎木　和貴
（平成5年・高45回卒）



旭化成陸上部に入部し、早半年が過ぎました。高校大学と七年間の陸上競技生活から、八年目に入った今、初めて競技に対する厳しさを教えられました。

これまでは、教育の一環としての競技（エデュケーションスポーツ）でしたが、社会人ともなると、そういうわけにはいきません。

まず、プロとアマの違いは、プロは給与をもらい、競技することです。調子が良い時はいいのですが、故障や病気で思うような結果が出せない時は、本当につらいです。学生時代は、少々結果が出なくても、周りは長い目で見てくれました。しかし、今は、結果が出せないと、すぐにでも会社にとっては必要とされなくなるのです。

そういう危機に立たされながら競技を続けることはやはりプレッシャーとなりますが、いい意味で刺激と緊張感があり、競技向上にプラスになっています。

こうした刺激もあってか、学生時代のぬるま湯からやっと抜け出すことができ、少しずつですが結果を残せるようになりました。

ようやく、今までの自分から一つ抜け出すことができたのも監督、副監督そして偉大な先輩谷口さんのおかげです。世界と戦うチームの中で競技を続けることができるということに感謝しています。

さらに、もう一つ今までと変わった事があります。それは、仕事をすることです。今までの学生生活では、一日一日が、何げなく終っていたような気がしています。仕事をすることにより、時間的な流れが出来、また、緊張感も出てくるようになりました。

社会人としてスタートを切り、何もかも新鮮な気持ちで取り組めることに喜びがあります。この喜びを感謝に変え、またそれを走ることで恩返しが出来れば最高だと思います。

競技の目標としては、世界と戦うチームにいますから、もちろんオリンピックで走ることです。まだ、厳しい周りの目には認めてもらえませんが、やるからには、メダルを獲れるような走りを目指しています。常に自分の目標を見失なうことなく、ひたむきに努力精進していきたいと思っています。

まだ出発したばかりで、これから何が起こるか分かりません。長い目で見守っていて下さい。

今後共、皆様のご指導をよろしくお願い致します。

環境調査・測量・建物検査・診断・開発・土木設計
補償コンサルタント業務
株式会社　コスモ環境設計
一級建築士事務所・測量事務所
温水（ぬくみ）　恍（高9回・昭和32年卒）
小川　勝應（高9回・昭和32年卒）
本社 〒101 東京都千代田区岩本町2-10-6 川原ビル2F
TEL ○三（五八二一）三三○○（代表）
FAX ○三（五八二一）三三○七

空間工房
●カーテン
●美術織物
●カーペット
●タペストリー
●ブラインド
●ロールスクリーン
●各種間仕切
●ルフォーム・内装・増改築
㈱インテリア上武
専務取締役　有坂　久美子
（昭32年・高9回卒）
◇本社　浦和市白鍬77－2
☎(048)855-7689　FAX852-6568
◇INTERIOR ART SARON
大宮市小町30－41
☎(048)665-6582

経営コンサルタント
中小企業近代化審議会大蔵部会委員
森山　誠一（旧中十五回卒）
(有)森山経営研究所
自宅　鎌倉市津西一－二五－二六
電話　○四六七－三二－五一○三

弁護士
立野　輝二（旧中十七回卒）
事務所
〒101 東京都千代田区神田駿河台三丁目一番地日光ビル4階
立野横山法律事務所
電話（○三）三二九一－九四六五

第八回卒

岩本　伸次郎（小林出身）
枝元　恒生（小林出身）
小岩屋　利治（加久藤出身）
境田　亘孝（加久藤出身）
野村　綱三郎（京町出身）

歩こう会

3年間で22回開催
さらに多数の参加を…

世話人 永迫　博司（高10回卒）

平成七年に歩き始めて、この十二月の「忘年ウォーク」で実行二十二回、雨による中止一回となりました。参加者の日頃の行いが善いせいか、天候に恵まれているように思います。

あっという間の三年だったように思いますが、特に今年は、新しい試みとして「尾瀬一泊ハイク」を計画し、18名の方が参加し全員元気に踏破したのが印象に残りました。

今回のような方式で行いますと幹事にかかる負担も軽く、業者の良い企画さえ見つければ何時でも実行できる事がわかりました。

来年の事を言うと鬼が笑うかもしれませんが、楽しい企画が期待できそうに思います。

最後の「忘年ウォーク」も前から何人かの方からご要望を受けていたのですが、今回やっと実行できて喜んでおります。歩いた後のフランス料理での忘年会はちょっと洒落て女性の方に特に喜んでいただけたのではないかと思っております。ご協力ありがとうございました。

平成十年度は三月二十一日（春分の日）から始めます。日頃から速足を心掛け、良い体調でのご参加をお待ちしています。

連絡先―電話（FAX）03―3852―0472（永迫）

見晴十字路「桧枝岐小屋」にて

尾瀬一泊―
ハイキングに参加して

田原　行規（昭和32年・高9回卒）

柿が熟し、紅葉の時期となった。「歩こう会」は、この十一月で二一回を数え、益々熟しつつあるが、しかし、枯れることはない。

一人では、探訪はおろか散策すらなかなかできないのに、歩こう会のお陰で私も見聞が広まった。

これまで、清澄庭園・富岡八幡宮（横綱の碑）・谷中墓地・六義園・とげぬき地蔵・馬事公苑・古河庭園等が印象に残っている。

今年八月、尾瀬ケ原一泊ハイキングが企画された。これで「歩こう会」も、歴史探訪の都内ウォーキングから一歩前進した。

でも、世話人のご苦労を考えれば、余りおねだりすることもできない。参加者は男七名、女一二名の計一九名であった。

有名なニッコーキスゲの時期はもう終わっていたが、それでも数本は間近かに見ることができた。キンコウカ・ミズギボシ・オゼコウホネ・ヒツジグサ・フトイ等もけなげに咲いていた。

また、時折ウグイスが啼き、ナナカマドや白樺の木々が風情を添えていた。夜は、全員が檜枝岐小屋（ひのえまたごや）に宿泊し、郷里の話に花が咲いた。

夜の尾瀬は、限りなく神秘的である。小屋を出て五〇mも行けば、そこはもう尾瀬ケ原の大平原であり、明かり一つなく、人気の全くない、シーンとした大自然の真っ只中である。

尾瀬は、夢科と釧路湿原の、両方のよさを兼ね備えていると思った。幸いに雨に降られることもなく、適当に汗をかいて、心の洗われる一泊二日であった。

「歩こう会」の良さは、健康的なウォーキングというだけでなく、併せて東京の名所旧跡をも探訪できるということです。そして何よりも、皆さんが同郷であるという点に特徴がある。名所旧跡といえば、奈良にいたとき京都・奈良はくまなく探訪したが、東京は通算十五年もいるというのに、灯台もと暗しであった。

趣味は、屋外と屋内に分けて、一人でできるものと複数でできるものを持てとよく言われる。ウォーキングを趣味と言えるかどうかは分からないが、もし田舎に引込むようなことがあったら、パソコン通信と郷土史探訪を趣味としたい。

最後に、歩こう会のコースを下見してまで企画して下さっている、永迫博司さん（高一〇回）に心から感謝申し上げます。

尾瀬にて

スポーツ文化部

快晴のもと、塩原CCで
第16回ゴルフ大会を開催

次回は東京近郊で日帰りG大会予定

スポーツ文化部・ゴルフ同好会

去る十月五日（日）に第15回ゴルフ大会を栃木県の塩原カントリークラブで開催しました。参加者は15名で、前日の奥那須「幸ノ湯温泉」での懇親会には橋口会長も参加。西諸弁が飛び交い、おおいに盛り上がりました。

当日は、快晴で絶好のゴルフ日和となり、参加者は難しいグリーンに一喜一憂しなぜらもプレーの醍醐味を堪能していました。優勝、ベスグロ賞とも今回初参加の星指さん（高31回卒）が獲得しました。また、今回初参加の旧中17回卒の柏木さんをはじめ、皆さんから「来てとても良かった、次回も是非参加したい」との感想をいただきました。

次回は来年春に、東京近郊で日帰りのゴルフ大会を予定しています。初心者の方も大歓迎ですので皆様の参加をお待ちしています。

10月5日、塩原CCにて

役員・卒年幹事紹介

桜萩会は70余名の卒年幹事および役員が中心になって運営されています。桜萩会または桜萩会だよりなどに関するご意見、ご提案などは幹事および役員までお寄せください。

【役員】

会長　橋口　和人（高1回・昭24卒）☎0425―36―8768

副会長　永崎秀一郎（高4回・昭27卒）☎045―802―5517
有坂（後藤）久美子（高9回・昭32卒）☎048―665―6582
丸山幸秀（高10回・昭33卒）☎03―3280―1378

代表幹事　大牟田理（高9回・昭32卒）☎045―541―5343

代表副幹事　村田浩平（高11回・昭34卒）☎03―3355―0349
中島祥行（高15回・昭38卒）☎045―985―4176
高井洋介（高15回・昭38卒）☎0480―22―3517
スポーツ文化部長
窪谷　治（高26回・昭49卒）☎044―854―6512
桜萩会だより編集長
川野普太郎（高34回・昭57卒）☎03―3763―2464

会計　細田節子（高9回・昭32卒）☎03―3917―5891
ひばり野（温谷）チエ子（高11回・昭34卒）☎03―3327―0518

会計監査　奥　義秋（高13回・昭36卒）03―3260―6090
針貝聰一（高22・昭45卒）☎03―3314―2037

相談役　丸岡眞幸（旧中1回・大15卒）☎03―3657―0014
森山誠一（旧中15回・昭15卒）☎0467―32―5103
立野輝二（旧中17回・昭17卒）☎048―465―6045
石渡浩子（高女22回・昭23卒）☎0425―77―6337

事務局　横山邦子（高9回・昭32卒）☎0424―63―3336

【卒年幹事】（役員兼任を除く）

旧中7回（昭7卒）　桑水流兼二　☎03―3382―6083

高1回（昭24卒）　木下剛耿　☎0463―21―3125
佐藤（恒川）和子　☎03―3961―7385

高2回（昭25卒）　白井忠功　☎0465―63―6786
西山　勝　☎043―248―0482

高3回（昭26卒）　戸高松栄　☎03―3691―6153
永岡清晴　☎03―3683―1685

高4回（昭27卒）　朝広伸夫　☎0466―81―3259
原田　智　☎045―961―3350

高5回（昭28卒）　有馬昭夫　☎0424―22―0210
小斉平忠　☎0427―58―2880
山下光正　☎03―3303―0300

高6回（昭29卒）　田中瑞穂　☎044―922―5381

高7回（昭30卒）　温水忠二　☎0424―65―1753

高8回（昭31卒）　大坪彪一郎　☎0474―63―8943

高9回（昭32卒）　温水　恍　☎043―485―9791

高10回（昭33卒）　永迫博司　☎03―3852―0472
池島数盛　☎03―3704―1544
石井（仮屋）孝子　☎0427―25―0191
中江（畠中）ヒロ子　☎03―3877―7981

高11回（昭和34卒）　坂元公男　☎0473―45―1861

高12回（昭35卒）　青山秀樹　☎0425―59―6208

高13回（昭36卒）　瀬戸口宣彦　☎048―666―0565
益田邦俊　☎0467―32―5943

高14回（昭37卒）　新村英法　☎0462―68―8393

高15回（昭38卒）　児玉國宏　☎045―786―3378

高16回（昭39卒）　東　五雄　☎0474―45―7000
小宮山教子　☎0550―83―4447
フリーマン（飯田）伊智子　☎0424―66―6126

高17回（昭40卒）　地村修二　☎0423―76―2695

高19回（昭42卒）　辻　英明　☎045―574―3561

高20回（昭43卒）　日高省三　☎03―3314―1221

高21回（昭44卒）　羽島俊秀　☎03―3869―0835

高23回（昭46卒）　大迫啓睦　☎045―834―2304

高24回（昭47卒）　金沢（徳永）敦子　☎0468―43―8617
上野就彰　☎03―3846―9688（会）

高26回（昭49卒）　椎谷哲夫　☎03―3755―5225
山形長之　☎03―3220―8569

高27回（昭50卒）　土田正広　☎0474―30―1192

高28回（昭51卒）　元日田二郎　☎0473―68―7398

高29回（昭52卒）　阿部信一　☎0473―86―6803

高30回（昭53卒）　広庭忠雄　☎045―833―1448

高31回（昭54卒）　仁田康治　☎0423―79―5993

高33回（昭56卒）　柚木裕子　☎03―3905―1376

高35回（昭58卒）　下原一晃　☎045―501―3346

高37回（昭60卒）　押領司和則　☎03―3353―7598

高38回（昭61卒）　古川浩貴　☎0423―34―7229

高39回（昭62卒）　平　千穂子　☎045―541―9116

高40回（昭63卒）　青山俊宏　☎03―3794―3109

同好会代表

●ゴルフ同好会　戸高松栄（高3回）
●歩こう会　永迫博司（高10回）
●バスケット応援団　上野就彰（高24回）

ふる里の新鮮・安全野菜をとどける
農産物直販プラザ「やせや」
代表　岩穴口辰也
高4回（昭和27年卒）
〒886 宮崎県小林市細野533―4
TEL 0984―23―2134

■企画・デザイン・総合印刷
・カタログ・ポスター・パンフレット
代表 戸高 松栄（昭26年卒・高3回）
企画・デザイン・総合印刷
株式会社トーダカ
〒125 東京都葛飾区白鳥1―10―4
TEL 03（3691）6153
FAX 03（3691）6174

おかげさまで35周年
横浜・湘南エリアで活躍する
スペシャリティストア MOTOMACHI Union
スーパーマーケット YOKOSAN
スーパーディスカウントストア 酒のSPARK
を、よろしくお願い申し上げます。
横須賀産業株式会社 代表取締役社長 富満勝盛（昭和39年16回卒業）
TEL:0468-35-0453

名水百選阿蘇山麓白水村天然水おいしい水でつくった焼酎
焼酎 とうもろこし 利千
むぎ焼酎 わかむぎ
高千穂酒造株式会社
宮崎県西臼杵郡高千穂町押方925
代表取締役社長
三国 岩男（昭和36年卒）

ToDo
㈲藤堂
事務機・視聴覚器
保育用品・文具・書籍
代表取締役
岩崎信昌（昭和38年卒業）
小売部 小林市文京通 ☎0984(22)3252
本部 小林市緑町 ☎0984(22)4751
FAX ☎0984(22)3600
えびのトードー ☎0984(35)0065

—桜萩会に寄せて—

桜萩会総会に出席し、「故郷を想う」—同窓生の心に感銘！

小林高等学校ＰＴＡ会長　槙　季三郎
(昭和46年・高23回卒)

今年度、ＰＴＡ会長をおせつかり、早いもので七ヵ月余が過ぎてしまいました。

昨年、副会長そして即、会長ということで、ＰＴＡに縁の少なかった私でしたので、何から何まで手探り状態の中で、分校長、年森教頭先生を始めとする先生方、そしてＰＴＡ役員の皆さんの暖かい御支援を頂き、楽しく今日までつとめさせて頂いております。

もちろん六月に開催されました桜萩会の総会も始めてで、今年度は、日頃の御礼も込めて、副会長、学年委員長二名も同行しまして、例年になく複数で出席させていただきました。会場に着くや全員来賓として出迎えられ、一時戸惑いを感じながら入場致しました。桜萩会の旗をメインにしたすばらしい会場設営、そして和やかな中にもスムーズな総会運営がなされ、組織としての充実ぶりを実感させられました。

私共、二〇・二二・二三回卒が出席するということで、幹事の方々が我々と同期の会員にも声をかけていただき、おげさまで久しぶりになつかしい友との再会を果たすことができ、その心づかいにも深く感銘させられました。

又〝故郷は遠きにありて思うもの〟我々よりも、母校そして故郷を誇りに思い、愛しておられる姿を見て、地元にいる我々もいろいろな面で反省させられました。

卒業してしまうと、ほとんどの卒業生は、母校の門をくぐることがなくなってしまいます。はずかしながら私も例にもれず、子供が高校へ入学し、ＰＴＡに参加しだしてから母校へ足を運ぶようになった次第です。同窓会の活性化には地元の人には機会ある度に、そして余所におられる人には帰郷の度に母校へ足を運んでもらうようなきっかけづくり、雰囲気づくりが必要な気がします。

今年の高校駅伝は御承知のように全国大会へのキップを逃してしまいました。いろんな問題点はあると思いますが、この負けを機に部員達は何かを感じ、何かを見つけ出し、飛躍して欲しいと願っております。この負けは部員達にとって人生の中で必ずやプラスになっていくものと私は信じております。部員はもちろん学校関係者も今が一番辛く、苦しい時だと思います。どうか暖かい目で、見守って頂きたいと思います。

年末にはバスケット部の応援でお世話になると思います。皆様とお会いできるのを楽しみにしております。桜萩会の御発展、御活躍をお祈り致します。

○出身地—小林市
○職業—㈲槙ケイアンドエム代表取締役（ゴルフ練習場ゴルフショップ）
○趣味—ゴルフ（ハンディ0）

感激の還暦同窓会
—母校正門に73名集う—

大坪　彪一郎（昭和31年・高8回卒）

去る十月十日、小林高校正門前に全国から馳せ参じた者七十三名。

国分校長に世話人の川野日郎君（宮大教育学部長）から記念の書架を贈呈し、全員で記念撮影の後、バスを仕立て、生駒高原のコスモスを観賞し、新装なったエビノ高原国民宿舎に合同投宿の運びとなりました。

高原の涼気は、すでに晩秋。露天風呂の感声は稜線に谺し、四十一年振りで会う者も居る宴会は、手を握り、肩くみ合って昔話しに熱中していました。又、恩師として境田昭男、山口二男、池田努の三先生に出席をいただき、恰好な酒の肴にされていたようです。

翌朝は、ゴルフ組と池めぐり組に分かれて、懐かしい想い出を重ねる事となりましたが、払暁、一転掻き曇り、雷声と共に驟雨となり、幹事は肝を冷やしましたが、八時頃には雨も止み、霜が立ちこめ視界四〇ｍの幻想的な自然林の中を、男十四名、女二十二名がそれぞれに、前になり、後になっての散策は、還暦記念にふさわしい楽しいものとなりました。

薩摩狂歌誌より

〝同窓会　ずるずる後家を取いこ囲っ　酔へば いっき軍歌を　唄と出け〟

えびの高原にて、41年ぶりの同窓生

故郷ニュース

◇小林市
超高級の新名物誕生！「チョウザメ」料理を開発

名水の里・出の山にある宮崎県水産試験場小林分場では、昭和五十七年に日ソ漁業交渉事業として、旧ソビエト産のチョウザメ「ベステル種」二百匹を導入、九州の水試では、同分場だけが養殖に取り組んできました。平成四年に全国で二番目に稚魚のふ化に成功、生産の見通しがつき平成八年度から幼魚六百匹の養殖を、市内の二業者に委託し、増産に乗り出しました。

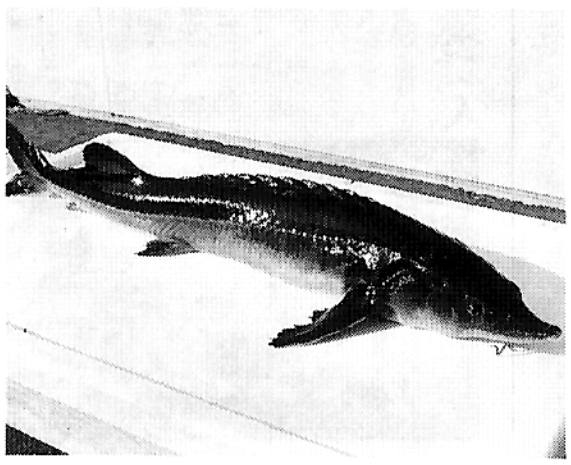
チョウザメの卵は世界三大珍味の一つ、キャビアは、食通たちの垂涎の的であり自らもまた「魚の帝王」や「ロイヤルフィッシュ」と称されています。チョウザメの寿命は一〇〇年以上といわれ、最大で八・六メートル、一・三トンぐらいの記録があります。

卵重は、体重の10%位ですが、キャビアが採取できるのは、八年以上のものであり、「希少価値」もありますが、市では、チョウザメに地域おこしの夢を託して、食肉魚としての側面に着目、分場と共同で料理開発に乗り出しました。

肉質は軟かくて、くせがないうえ、臭みもなく「タイ」のようで多少脂がのっていますが、刺身に良いし、中華、フランス料理などにも最適です。

本年度中には、市内の指定レストラン、出の山等（予約制）で高級チョウザメ料理が味わえる店が誕生する予定です。また、小林出身で、世界的なファッションデザイナーの鳥丸軍雪氏に依頼し、チョウザメのロゴも決定しました。今後はグッズ製品も計画しております。チョウザメが小林市の新しい名物に育ってくれればと期待しています。

（小林市企画調整課）



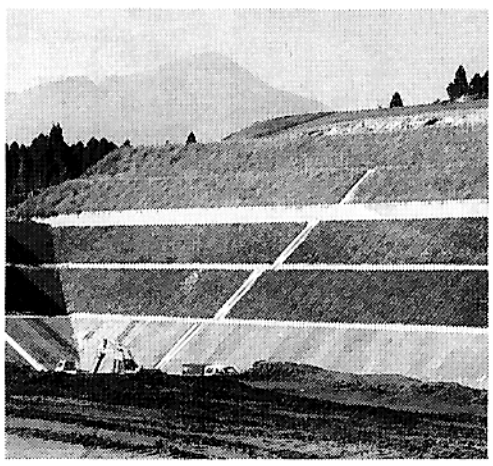
養殖に成功したチョウザメ

◇高原町
工業団地の造成工事開始！

21世紀を視野に入れた新たな工業生産の拠点「宮崎フリーウェイ工業団地」の造成工場が広原地区で始まりました。

この工業団地は、西諸二市二町一村の要請を受けた宮崎県土地開発公社が事業主体となって造成するもので、開発面積は五四ヘクタール。このうち、調整池や公園などを除く分譲面積は約二八ヘクタールで、一・三～八・三ヘクタールの五区画に分譲されます。土地代を含む総事業費は三二億円で、平成一〇年度末に完成する予定です。

この造成工事と平行して県と西諸五市町村で組織する企業立地促進協議会では新聞やパンフレット、企業立地セミナー等を通じて工業団地をＰＲし、企業誘致を進めています。



造成中の「宮崎フリーウェイ工業団地」

編集後記

「桜萩会だより」の発行が今回で三十回目を数えた。年二回の発行で、十五年間。全国各地の母校同窓会の中でも、これほど継続的に機関誌を発行しているところはない。

永崎さん（高四回卒）、中島さん（高十五回卒）の先輩編集長をはじめ諸先輩方のご尽力の賜だ。

この連綿と築き上げられてきた編集の仕事を引き受けて三年。母校への想いは人一倍強いつもりだったが、業務と家庭の合間を縫うように四苦八苦の新聞作り。なんとかここまで来れたのは、多くの方々に支えられたからこそ。

激動の平成九年もあと僅か。金融関連大企業の経営破綻が相次ぐなど、景気が深刻さを増すなかで年の瀬を迎える。株式会社「日本丸」は果たして大丈夫だろうか。

新年は職場にも家庭にも友人にも、そして故郷や桜萩会の方々にとっても明るい一年であって欲しいと願う。

「桜萩会だより」へ、皆様のご意見・ご要望、近況報告、おたより故郷の穴場情報等、何んでも、どしどしお寄せ下さい。(編集部)

㈲ナサクス
代表取締役　温水　忠一
高七回（昭和三〇年卒）
〒170　東京都豊島区東池袋二—六三—一七
電話〇三—三九七一—一七三〇
FAX兼用〇三—三九八一—八四二五

司法書士　大坪　廣次
高十一回（昭和三四年卒）
事務所　東京都三鷹市下連雀三—二七—一五
〒181　南口駅前通り野村ビル4F
電話（〇四二二）四九—五五〇五(代)
自宅　東京都三鷹市下連雀四—一〇—二
〒181　電話（〇四二二）四四—〇七八〇

健康食品・野草茶各種
会員通信販売
ＯＢの方には
縁故会員割引制度有
(有) ネオサークル
高15回卒　中島祥行
〒107　東京都港区赤坂4-8-8
TEL 03 (3405) 5353

有限会社エビノ電設工業
代表取締役
南馬越　末義
高4回(昭和27年卒)
神奈川県電気工事工業組合　専務理事
当社は
地球環境の未来への
クリーンエネルギーシステム
作りに協力します。
電気設備のコンサルは当社へ
技術を求める方は当社へ
〒246
横浜市瀬谷区瀬谷1-4-4
TEL　045-301-6130
FAX　045-302-4524

(オン・ザ・ロックでお楽しみください)
霧島酒造株式会社
東京支店/東京都中央区八重洲2-11-2 城辺橋ビルフ
〒104 TEL03(3272)4455FAX03(3272)4494